

お墓参り

もうすぐお彼岸の季節です。みなさんをご先祖様のお墓参りはされていますか？お彼岸といえば、お墓参りをする日であるといったイメージを持っている人が多く、この時期になるとお盆同様、帰省や里帰りをした先祖のお墓参りに向かう人も多くみられます。

お彼岸にお墓参りをするという習慣は日本独自のものだそうで、彼岸という言葉の由来や意味から、仏教の行事であると思われがちですが、お彼岸は一般的な仏教の考え方に加えて日本独自の風習や考え方が加わり、さらに色濃く反映されているため、他の仏教国では見られない習慣になったと考えられています。

自分のご先祖のお墓は遠方であって（父方は長崎、母方は東京）、祖父、祖母ともに亡くなり、家もないため、お墓参りに行く機会があまりありません。

今回、母方の祖母の7回忌のため5年ぶりに東京へお墓参りに行きました。生活空間が広がってバラバラになったこともあり、親戚全員が揃うことはありませんが、久しぶりに会って話をしました。年月が経つと家族が増え、体型も変わり、みんな年をとっているな～と実感します（笑）。自分には妹が2人いますが、家庭事情もあり同行できませんでした。2人は子ども時に遠方である両親の実家にもあまり帰ったことがないので、実家のお墓参りをした記憶がないようです。

生活様式や社会環境が大きく変化し、核家族化が進んだ現代において、親戚付き合いは自分にとっては必要がない、わずらわしいと思われる方もいるとは思いますが、自分の考えとして親戚は親戚なので、自分ではそのつもりがなくても、自分の親や兄弟姉妹が世話になっているかもしれず、家族・親族のつながりはそう簡単に断ち切っていいものではないのではないかと思います（個人の色々な家庭事情はありますが）。年に一度しか会わない、または何年も会わないような親戚と良好な関係を築くには、それなりの気遣いや努力が必要です。

とはいえ、自分は活用ツールである年賀状などをいつしか親戚に送ることがなくなっていました。今回はお互い連絡先を聞いたり、LINE交換をしました。自分も相手にとって大切な“親戚”なのですから、つながりは大事だと思いました。

